



会長	橋本八右衛門	青少年奉仕	正部家光彦
副会長	妻神 和憲	幹事	小田山紀暢
クラブ奉仕		会計	岡崎 孝文
会長エレクト	石橋 信雄	会場監督	鶴飼 寿栄
職業奉仕	山村 和芳	直前会長	紺野 広
社会奉仕	小井田和哉	副幹事	中村 稔彦
国際奉仕	深澤 隆	会計補佐	浜谷 英幸

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
 事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
 電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
 e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
 http://hachinohe-rotary.org/
 会報・広報委員長 宮下 悟 同副委員長 峯 正一
 同委員 松林 拓司 同委員 上村 奉樹

国際ロータリーのテーマ — 2024~25 — 八戸ロータリークラブのテーマ

ロータリーのマジック

学ぼう、つながろう、そして一歩前へ！
～個人を磨くとクラブも輝く！再構築ロータリー～

国際ロータリー会長 ステファニーA.アーチック

八戸ロータリークラブ会長 橋本 八右衛門

10月 は 米 山 月 間 で す

第3330回例会 2024.10.9

会長要件 橋本八右衛門 会長



本日はお米の話をしたと思います。先週、兵庫県西脇市に青森県酒造組合の立場で山田錦を見に行ってきました。山田錦はわれわれの酒米、酒造好適米、大吟醸な高級酒を作るひじょうに貴重なお米です。性質は大粒で割れにくく、タンパク質、脂分が少なく、心質があって吸水性がよく、溶けやすい。外側が硬くて内側が柔らかく、麴かびが入りやすい。この酒造好適米の王様が山田錦ということです。主な適作地は、今は気温が高くなってきて本当に適作といえるかどうかわかりませんが、兵庫県がその場所です。

青森県の主要分の山田錦が西脇にあるみのり農協で作っていただいています。山田錦の作り方は村米制度で、その村全体が、例えば剣菱、瀬祭などの酒造メーカーに供給する酒米全体を作っている。青森県全体で使っている山田錦を作っているのがみのり農協の農家さんたちです。山田錦はひじょうに人気があって、しかもお酒がいっぱい売れている時

代には希望数量をお願いしていても7~8割くらいしか入ってこない。それで昔から青森県として、ぜひ青森県にも希望数量を分けてくださいということで行脚していて、毎年そのお願い、顔見世に歩いてたということです。今年は見ところは、高温障害、虫の害も少なく、去年は高温障害で大変でしたが、去年と比較しても今年はいいお米が入りそうだとことをみてきました。

そこで話題になるのはうるち米の価格高騰の件。これはたまたま去年あたり、マスコミは店頭からお米が消えたと少し煽り気味の報道をしましたし、新聞などでは農家から集荷業者や全農が集める概算金（先払い金）が4,000円も5,000円も付いているなど、そういう話題で持ち切りですが、たまたま去年は天候不順の不作の上、南海トラフの騒ぎもあり需要があった。インバウンドが好調でレストランや大手飲食店が使う業務用米がいっぱい必要になったということで急激に市場の米が少なくなって、ああいう米騒動のような形になったということです。

今ようやく新米が出て、それでもやっぱり高いというのは、もう当て込んで集荷業者は

コメの確保競争に走っている。それで前もって5,000円だ、6,000円だということで高い値段をつけて買まくっている。わたしが話をしたのは全農ですが、全農は全体の供給、長期を見込んでの値段の付け方をしているので、なかなか値段を上げることができない。それでもそれを度外視して上げながらやっているが、全農はなかなか集めるのがたいへんだということらしいです。集荷さんは相変わらず高い値段で買まくっているという状況です。

これをやられると、われわれ酒造好適米はそれをやられると、酒造好適米はもともとうるち米よりも高く、山田錦では1俵約30,000円弱を常にしていて、それを前後してわれわれは支払いをしています。いろいろ作付けの技術、穂も高く倒れやすく、収量も少なくしかあがらない、手間もかかってたいへんだという状況で安定して、その分の価値に対してわれわれは払っています。おととい組合で全農青森からコメの値段を聞きましたが、酒造好適米は前年より1,000円くらい高いくらいです。米を溶かすために作る麴に使う米はだいたい酒造好適米ですが、糖分を供給してやる上にどんどん追加してかけるかけ米には一番安い加工米とうるち米を使ったりしますが、それにまっしぐら、青天の霹靂を使っているメーカーが青森県内にもあります。5年産の受け渡し価格はまっしぐらで14,000円くらいだったのが今年は23,000円くらいとめっちゃめっちゃ上がっています。逆にいうと、酒造好適米が1,000円上がったといっても、一般的に使われるのが16,000~17,000円。ご飯のお米と酒造りのお米が逆転してしまった。

こういうことが続くと、酒米を作らないでうるち米を作付けするべか、というような世界になって。一番安いカテゴリーの加工米、米を原料にして使う業者、お菓子屋さんなどはこれからはなかなかたいへんな世の中になっていく。本当に酒作りも米作りから、とにかく自分たちの米を確保するような形でスライドしていかないとダメかなというような時代がくる。そんなことを感じて帰ってきました。今年は米は良さそうといっても、青森県は収

量は前年の90%くらいが現実的。うるち米も良といっても実際にとってみればというような感覚だそうです。ライケットに聞いたところ、価格がある程度こなれるかと思ったら、米不足は生産調整は当然そのまま引き続くから、来年もまたやはりこのような状況が続くのではないかと、大変だと言っていました。かといって、米を買い占めても、だいたい数か月で虫がわきます。茶碗一杯にしてみれば1.5倍になった、2倍になったといっても皆さん、だいたいご飯を1膳か2膳、しかも1日一食食うか食わないかということなので、そこら辺をいろいろ考えながら生活していただければいいな。

今年は米がいいようなので、頑張ってお酒を造りますので、ぜひ買って飲んでいただければと思います。

幹事報告 小田山紀暢 幹事



- 来週、10月16日(水)の例会は、スポーツの日の週につき休会。
- 13日(日)は五所川原で地区大会がありますので、ご参加される方はご準備をお願いします。

委員会報告

親睦会場委員会

佐藤恒寛委員



- ニコニコボックスの報告
- ・誕生祝 栗谷川敏彦 赤澤栄治さん
- ・結婚記念日 峯 正一・鴨澤 諭さん

橋本八右衛門さん

今週末の地区大会、よろしくお祈りします。参加するだけでよい気楽さをかみしめたいと思います。

夏川戸 齊・上村奉樹
小田山紀暢さん

小野さん新会員卓話
よろしくお祈りします。

道尻誠助・中村稔彦
小井田和哉さん

ニコニコデー

ロータリーの友委員会 道尻誠助委員長



「見て楽しい、読んで感動、食後の眠気覚まし」の八戸ロータリー友の会委員会です。前半はわたしが、後半は今月号の紹介を澤藤さんをご紹介します。

します。

今回は活気のある1960年代の10年間のロータリーの友から抜粋したものをご紹介します。1960年代はカラーテレビが放送開始、初のテレビ長編アニメ鉄腕アトムが始まりました。また東京オリンピックが開催され、一番われわれにとって記憶に残るのはカルビーのかわえびせんの発売が始まった年代です。ロータリーとしてはひじょうに大きな時代でした。記憶に留めて欲しいのはアジア初の国際ロータリー年次大会が東京で開催されました。

1961年7月号に八戸ロータリーの橋本八右衛門会長が載っています。すごく凛々しく学識のある感じの会長です。次は昭和40年の村井幸吉会長（村井達さんのお父さん）です。10年間に2人の方が紹介されています。表紙に蕪島の写真が選ばれています。ひじょうにとらえ方がプロの写真家なのかなという感じがします。

今回紹介したいのは、昭和38年4月号に載ったロータリーの精神的な若返りのために、若きロータリアンたちの声という座談会がありその様子です。メンバーは27才、28才、26才、20代の方々が「若いロータリアン」という話をしています。ご興味のある方はご覧ください。

澤藤孝之副委員長



10月号の記事を紹介します。10月は地域発展月間です。その特集で名士の足跡とロータリークラブの特集が組まれています。この中で3人の名士

が紹介されています。1人は米山梅吉さん、渋沢栄一さん、3人目は福沢諭吉さんです。

横組みP9 米山梅吉さんのゆかりの地で長泉が紹介されています。伊豆半島の付け根

の町です。米山さんは東京生まれですが、5才のときにお父さんが他界されてお母さんの郷里である長泉に移住しました。米山さんはここで幼少期を過ごしますが、長泉を大変愛しており、後年名を上げてから別邸を建てられたということです。三島駅からタクシーで5分くらいのところに米山記念館があります。当然、長泉にもロータリークラブがありますが、このクラブは米山記念館を支援するということを中心に創立されたということです。

2人目は渋沢栄一さん。生まれた土地の深谷を紹介しています。深谷はネギ。深谷のねぎは糖度が10～15度でみかんと同じ糖度だそうです。深谷の方々は進取の気持ちは強かったのか、大正時代に深谷ネギというネーミングを付けて、大正時代の1916年に東京に出荷したが、トラックを使って出荷した。当時あまり自動車もない時代にトラックを使って出荷するのはたいへん珍しいことだったようで、それが話題になって深谷ネギが一段と有名になったという話が載っています。

3人目は福沢諭吉。生まれた九州大分中津を紹介しています。中津はお城と福沢諭吉で有名なところ。黒田官兵衛が築城した城です。江戸時代後半から蘭学が盛んになって、そういう背景からいろんな人材が輩出する中で、こういう福沢諭吉という傑出した人物を輩出したようです。中津ロータリークラブは蘭学の里中津ということで、全国にPRしているようです。八戸は菊の里。このように地域発展月間ということで3か所を紹介しています。

縦組みP4 地区大会のスピーチ原稿、概要が載っています。千葉県南房総にある鋸南ロータリークラブの堀田さんのスピーチです。本業は訪問介護の事業者。一方で災害支援団体の代表も務めています。災害支援団体を作って活動を始めたきっかけは、2019年（令和元年）9月9日に房総半島台風があって、かなり大きな台風でした。（ゴルフ練習場が倒れた時の台風？）そういう中で支援活動をした。9月9日台風がきて、ブルーシー

トを敷いたわけですが、その後、どういうことが起きたかというカビだそうです。南房総で暑いところなのでカビがものすごかった。いろいろな支援活動をすんなり受け入れてもらえなかったり、という難しさ。最後に感謝されるとやりがいがあるな。

なかなか面白い文章になっています。

P この人を訪ねて。神主さんは本名孝至さんというお名前前で、淡路島の伊弉諾神宮の宮司さんです。役職は特級。全国に神職は22,000人くらいいますが、特級は120人くらい。この方は代々家が神職ではなく、全然関係のない満州生まれでお父さんが大学の先生だったけれど神職をやっている。宮司になる

大学の皇学館大学に7年間在学し、在学中はハワイアンバンドにのめり込む。1989年に伊弉諾神宮に赴任して立て直した。神社本庁から指名され人事異動で来たという話です。その前にもいろんな神社を転勤していて、神社の世界はこういうものかという新たな発見もありました。2006年に伊弉諾神宮の宮司になったのをきっかけに、ロータリークラブに入会したそうです。

P 柳壇 上村奉樹さんが地位に選ばれています。長らく道尻さんの独壇場でしたが、ライバルか八戸ロータリークラブでこれから一大川柳ブームが巻き起こるか。乞うご期待です。



新 会 員 卓 話

小 野 恭 さん



本日は自己紹介を中心にお話をします。わたしは小野恭です。“恭”を言うときに説明が難しくてちょっと困ります。年賀状に書く恭賀新年の

“恭”の一文字ですということが多いです。小学校時代は“たかし”と読んでくれないです。たいてい“やすし”と読みます。そうするとわたしが子どもの頃、小野ヤスシという名前のコメディアンがいて、校長先生がいろんなものを呼んで、〇〇小野ヤスシという一気に笑われてしまうわけです。ですので、子供のころは何でこんな漢字にしたのかと親をちょっと恨んだこともありました。

わたしは九州佐賀県武雄市で生まれました。九州佐賀県は福岡県と長崎県の間に挟まれた小さな県です。武雄市は有名なものがなく、周辺に有田、伊万里など陶器で有名などころがあります。唯一武雄市で大事なものは国の指定重要文化財の楼門です。これは武雄温泉の出入口に建っている門ですが、東京駅を設計した辰野金吾さんが設計された由緒正しき門らしいです。子供のころはもっと古ぼけていて、ぼんやりした建物でした。武雄温泉に

は何回か入りましたが、本当に鄙びた小さな温泉で、そんな有名な人が設計した門だということは全然知らずにくぐっていました。こういう何もない田舎町に高校まで行き、その後、大学に進学しました。

大学では工学部に入りまして高分子科学科に行きました。なかなか馴染みがないと思いますが、端的にいうとプラスチックの製造方法、その性質を研究するところです。大学は京都に行き、そこで大学を卒業し、大学院修士課程まで2年間いきました。あまり勉強するというよりは、当時はバスケットボールをやっていたので、バスケットボールにだいたい5割くらい注ぎ込んで、残りの5割で勉強していた感じでした。大学を卒業したときに当時の三菱化学（現三菱ケミカル）に入社して、三重県四日市にあるコンビナートで働くことになりました。九州から京都、四日市とだんだん東にくるわけです。

当時勤務していた三重県四日市のコンビナートで、今は三菱ケミカルという名前になっています。工場の中に立っている煙突です。工場内に発電所があり、自分の工場で使う電気は石炭を燃やして発電する煙突で、高

さが50mでした。いろんなプラントがあり、四日市工場ではコークスを原料としてカーボンブラック、ペットボトルの原料のポリエチレン・テレフタレートなどいろんなものを作っていました。

わたしはここで10年間、ペットボトルの原料のポリエチレン・テレフタレートの研究開発を行っていました。久しぶりに化学記号を書いてみましたが、一応覚えていました。ペットボトルの原料はわたしが働いていたところはカセットテープのテープもペット、ポリエチレン・テレフタレートですが、そちらの研究もしていました。どれだけ安くいいものが作れるかの研究をしていました。実験室の中でフラスコを持って、マツト・サイエンティストみたいなこともしていましたし、実際にこういうプラントの現場に行き、どこが調子が悪いのかというようなことの仕事もしていました。だから研究開発といっても、本当に机に座って実験ばかりやっているというのではなく、現場にも出て、24時間勤務まではなかったのですが、徹夜も何回もしたことがあります。

当時わたしが通勤に使っていた横断橋、向こうに見えるのが工場の煙突です。この近くに独身社員寮があり、そこから歩いて5分くらいで工場まで通っていました。この歩道橋には思い出があり、入社して5年目だったと思います。ここを歩いて登っているうちにだんだん腰が痛くなってきた。ものすごく腰が痛くなった。最初はぎっくり腰かなと思ったのですが、(もともとぎっくり腰の気があった)、ちょっと違う。何かおかしいと思いつつ、痛みをこらえて工場に行った。工場では朝ラジオ体操をするのですがものすごく痛い。トイレに行っておしっこをしたら真っ赤だった。尿路結石でした。尿路結石で苦しい思いをして、ここを登っていったという苦い記憶があります。

起きると寮から工場の煙突が見えるわけです。煙を吐いていますから臭うわけです。近くに大きい道路が走っているので、その排気ガスもものすごいです。だから早く出たいと

当時は思っていました。いろいろすったもんだあり、ここは10年くらいで辞めて、その後、司法試験の勉強を…。そこからすごく長かったです。(割愛)

弁護士になって、浅石法律事務所に入れていただきました。平成25年から登録をして青森県弁護士会に所属しています。弁護士としてのわたしの職務は4つあります。民事事件、家事事件、刑事事件、弁護士会委員会です。

- ①民事事件：貸した金を返さない、交通事故などがあつときに代理人として相手方と交渉して、場合によっては裁判を起こすのが民事事件です。
- ②家事事件：例えば離婚をしたい、あるいは相続でトラブルしているなどなどは家庭裁判所が受け持っていますので、そういう事件は家事事件と呼んでいます。こちらについても依頼を受けて代理人として交渉して、交渉がまとまらないときには調停をします。
- ③刑事事件：悪い事をした人が逮捕されて裁判を受ける事件です。こちらについては誰からか依頼を受けるというよりは国選、だいたい当番が決まっているので、この日は〇〇という当番が決まっています。運が悪い人はその日に起訴された事件を担当しなければいけない。現時点ではわたしは今のところ3件ほど抱えています。こちらについても弁護士として被疑者(被告人)の辩护人、代理人的立場でその人の弁護を行う仕事をしています。
- ④委員会：弁護士会にはロータリーと同じくいろんな委員会があります。青森県弁護士会には20くらいの委員会があります。ものすごく委員会に参加される方が少ないので、一人がいくつも掛け持ちしています。多い人は確か19委員会を掛け持ちしていますが、わたしはそこまでいってなくて、今のところ5つくらいです。

こういうふうな、こういうふうな仕事がありますが、ロータリーの四つのテストに合っているのかということです。正直申しまして、弁護士の委員会の仕事はこれに合うかなと思

います。が、民事、家事については、先ずは代理人の利益を最大にするように仕事をしなければいけませんので、「真実かどうか」についても、そこは弁護士としては、よくいろんなドラマで真実の一つだとかありますが、弁護士としては真実は人の数だけある。真実がいっぱいあるからそれがぶつかってトラブルになると考えています。

「みんなに公平か」：そうではなく、やはり弁護士としては代理人の、依頼人のためにやりますから、みんなに公平にしているは仕事になりません。

「好意と友情を深めるか」：話し合いでまとまることもないことはないですが、まとまらないことのほうが多いです。だから調停や裁判になるわけです。そうすると好意と友情を深めることにはならない。だから民事事件と家事事件はまじめにやればやるだけ、ここにはどうしても当てはまらないというふうになってしまいます。

ただ、刑事事件については、これはここに合致するんだとわたしは思っています。皆さんの印象として、刑事事件で何であんな悪いヤツの弁護なんてするんだ、ああいうヤツは重い罪、刑罰を与えればいいんだ、弁護しなくていいんだというふうにお考えの方もい

らっしゃるかも知れません。ところが、これはまさに“真実かどうか”というところが争いになっているわけです。認めている被疑者、被告人の場合はそれでいいですが、おれはやっていない、ここは違うという場合には弁護人が力を尽くして真実かどうかを争うことになるわけです。

“みんなに公平かどうか”、これも刑事弁護をしたときに当然、その被疑者、被告人のためにするわけですが、みんなに公平かということは、そういう刑事事件になったときに、国民の皆さんが全員弁護できる、そういうふうな弁護制度を守らなければいけない。そういう意味ではみんなに公平だと考えています。

“好意と友情を深めるか” 刑事事件ではそういうことがあり得ませんので、ここはどうしようもありません。が、悪いことをやった人を弁護しないということになりますと、最近問題になりました再審事件で無罪になりましたが、ああいうものも弁護人が力を尽くして真実を訴えてきたから無罪になったわけです。ですから、わたしはこの刑事事件をする、悪いことをした人を弁護することはみんなに公平か、真実かどうかというところには合致するのだろうなと思っています。

出 席 報 告						出席委員会	
第3330回例会（10月9日）			第3328回例会（9月25日）				
出席率		54.0%	出席率		68.3%	修正出席率	71.4%
総会員数		65名	総会員数		65名	メイクアップした人数	2名
出席義務会員	出席免除会員	欠席数	出席義務会員	出席免除会員	欠席数		
63名	2名	29名	63名	2名	18名		